

学校外教育経験が 社会的地位に及ぼす影響

——なぜ人々は学校外教育に投資するのか——

HS22-0080B 丹野 晃輔

近年、ゆとり教育による学力低下や学歴主義が問題視されてきた。この2つの問題に少なからず学校外教育が影響している。国際学習到達度調査(PISA)において、日本で、勉強する生徒の得点が高いのは「塾・予備校など」という結果が示されている。また、学校外教育の経験が学歴や学校歴に影響を与えていて、小学生や中学生、さらには高校生が学校外教育に取り組むことは一般的なことになっている。そこで、本稿では、塾や予備校などの学校外教育の経験が人々の学歴、さらに、収入においても影響を与えている形成要因として仮説を立てた。

使用したデータは、東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクトが「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」として実施した「若年パネル調査」・「壮年パネル調査」を用いた。分析手法として、カイ二乗検定、回帰分析を行い、仮説を検証した。

分析結果としては、塾・予備校の経験をした人ほど学歴が高くなり、また、塾・予備校に通った人の方が通わなかった人よりも現在の収入が高く、特に女性の場合は、塾・予備校に通った経験がある人の方がより現在の収入が高くなることがわかった。つまり、進学目的のために塾や予備校に通うので、学歴が高くなり、さらに、学歴が高くなることで正社員・正職員として雇用されやすくなり、収入が高くなる。そして、男性に比べ女性は教育投資額が多いため、教育投資の多い女性の方が、教育投資額によって収入に影響を及ぼしていると考察した。

人々は学歴や収入に対して学校外教育が大きな役割を担っているため、経済的負担となる学校外教育に取り組み、投資をしている。学校外教育を利用することにメリットがあるのかもしれないが、学校外教育が学歴や収入にプラスの影響を与えないように、学校教育が役割をしっかりと果たすべきではないだろうか。